

PTA

やまがた

第47号

令和5年3月発行

・編集発行・

山形県PTA連合会

会長 船橋 吾一

山形市大字風間字地藏山下2068

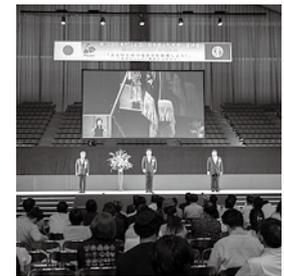
弘栄設備工業株式会社内

TEL 023(676)8693 FAX 023(676)8694

・印刷所・

武田紙工株式会社

山形市和合町1-1-51 TEL 023(622)4187



第70回 日本PTA全国研究大会山形大会 第54回 日本PTA東北ブロック研究大会山形大会

大会スローガン

『人とひとのつながりを体感しよう!』～あがらっしゃい精神の山形から～

第70回日本PTA全国研究大会 山形大会開催へのご協力 ありがとうございます

山形県PTA連合会会長 船橋 吾一



り私たちを取り巻く環境は一変し、様々な変化に対応していかなければならない時代となりました。こうした中、山形県PTA連合会は「学びの歩みを止めない」という思いから、昨年度に引き続き『人とひとのつながりを再確認しよう！』と愛する子供たちの健全な育成と幸福のために、このスローガンのもと活動を展開してまいりました。

日頃より山形県PTA連合会の活動に対しご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、それぞれの郡・市PTA、そして各学校・地域社会においても子供たちの健全育成のためにご尽力いただいておりますことに、心より感謝と敬意を表します。

新型コロナウイルス感染拡大によ

今年度も、昨年同様にコロナ禍は私たちの活動に大きな影響を及ぼしました。事業の中止・内容変更・リモートでの開催等、あらゆる手段を尽くし活動してきたところです。中でも、二〇二二年八月二十六日・二十七日に開催しました第七十回日本PTA全国研究大会山形大会は、準

備から開催に至るまでコロナ禍の戦いであったといっても過言ではありませんでした。二〇一九年十一月実行委員会が結成されましたが、まさしくコロナウイルス感染拡大と同時に結成でした。コロナ禍の中で準備を進めてきましたが、殆どがリモートでの会議であり意思疎通の難しさを痛感しながらのものでした。二〇二二年五月ようやくコロナ禍が収束の兆しを見せ、開催準備に拍車をかけたところでしたが、七月下旬に想定外の感染拡大第七波は日本国中を混乱させました。当然ながら私たちの全国大会も、開催是非を問われる事態となりました。山形県教員委員会・各分科会実行委員長・大会実行委員会本部・関係各位との度重なる議論の末、開催に踏み切る判断を全員で下し、ようやく無事に開催することができました。このような状況による開催は、奇跡というほかありません。関わっていた皆様、この場をお借りして感謝申し上げます。

全国大会を主管した私たちにとって、開催することが目的ではありません。

せん。開催することで、山形県PTA連合会の更なる発展、共に汗を流した皆様とのつながりの共有、よりよいPTA活動への理解の醸成など、多くの目的を達成しようとするものです。最終的には私たちのかけがえない子供たちの未来のためになることで、私たちの活動に意味がもたらせられると思います。少しでも多くの皆様が、そのような目的を達成でき、発展的未來を見据えられたものであればと願っております。

全国各地から、コロナ禍においても開催することができた山形県PTA連合会に感謝の声が続々と届いております。その声を後押しに、これからも活動に全力を尽くしてまいります。

結びに、山形県教育委員会様をはじめ関係各位の皆様から感謝申し上げますとともに、今後とも指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。あいなさつといたします。



第70回日本PTA全国研究大会 第54回日本PTA東北ブロック研究大会

山形大会 大成功!!

第70回日本PTA全国研究大会山形大会・第54回日本PTA東北ブロック研究大会山形大会が、令和4年8月26日(金)・27日(土)に、分科会が山形県内10会場で、全体会が山形市総合スポーツセンターで開催されました。公益社団法人日本PTA全国協議会は、全国64協議会800万人の日本最大の社会教育関係団体です。PTAは、家庭と学校そして地域をつなぐ大きな役割を担っています。私たちは、コロナ禍においても、愛する子供たちの未来のために「学びの歩みを止めない」という思いで活動を続けてきました。これからも、大きく変化する教育環境に親としてPTAとしてできることを、歩みを止めることなく学びを深めたいと考えています。山形大会は、中止になった富山大会、リモート参加になった北九州大会の熱い思いを引き継ぎ、すべてのPTA会員が人とひとの「つながり」の大切さを体感できる大会になることを願って開催されました。

大会スローガン

『人とひとのつながりを体感しよう!』 ~あがらっしゃい精神の山形から~

Withコロナ時代、コミュニケーションの基本である「会う」ことが極端に制限され、本来大切な「つながり」というものを感じることができなくなっています。「あがらっしゃい」とは、山形の方言でおもてなしの言葉です。このあがらっしゃい精神が宿る山形の地で集うPTA会員が、素敵な「つながり」を体感できるような大会にしたいという思いが込められています。



全体会

歓迎アトラクション

「やまがた The MOGAMIGAWA」

ひとつの県を流域とする流路延長229 Kmにわたる一級河川最上川。山形県の歴史、文化、産業、芸術等あらゆる面に大きな影響をもたらしてきた最上川。田畑を潤し、富をもたらし、時代を越え、歌や踊りとしても現代に受け継がれてきました。

県内出身のシンガーソングライター民謡日本一に輝いた朝倉さやさん、地元「良絃会」の伴奏による花笠音頭の演奏、村山産業高等学校「又新連(ゆうしんれん)」の躍動感溢れる徳内ばやし、山形大学花笠サークル「四面楚歌」による華麗なパフォーマンス、優しくも激しい山形県の母なる川「最上川」の流れにのせた山形の文化の一部が披露されました。



開会行事

開会式では、築文部科学副大臣と吉村山形県知事からご祝辞を頂きました。その後、金田公益社団法人日本PTA全国協議会会長と船橋山形大会実行委員長から、主催者あいさつがありました。そして、山形市を代表して、佐藤山形市長より歓迎の言葉がありました。



金田日本PTA全国協議会会長

記念講演 並びに 記念演奏会

記念講演は、2007年より山形交響楽団音楽監督に就任、芸術総監督を経て、今年、桂冠指揮者に就任、山形をはじめ国内外で活躍をされている、指揮者・飯森範親さんです。

演題は、

『「一本のタクト」は、人のこころを豊かに幸せにするアイテム ライブでしか味わえないお話と演奏をあなたに・・・』です。

オーケストラの中心であり司令塔である指揮、曲に内在する感情を引き出すのが指揮者の仕事。日本の指揮者を代表する飯森範親氏は、真の指揮者とは「一本のタクト」により、オーケストラの演奏者一人ひとり、視聴者一人ひとりを見えない糸でつなぎ合い、紡いでいく。あらゆるものを超越した唯一無二の空間を作り出せる存在であると語ってくれました。飯森氏の講演から「人とひとつのつながり」の大切さを、すべての参加者が体感することができたと思います。



閉会式

山形大会の成果を取りまとめた大会宣言決議が、荒井大会宣言起草委員長より提案があり、大きな拍手で承認されました。

2022年8月27日(土)

第70回 日本PTA全国研究大会
第54回 日本PTA東北ブロック研究大会

山形大会 速報

PTA 2022 YAMAGATA

『人とひとつのつながりを体感しよう！』
『あがらっしやい精神の山形から』

第70回日本PTA全国研究大会が26日、山形県内で「人とひとつのつながりを体感しよう」をスローガンに掲げ開催し、山形県での開催は平成5年秋以来29年ぶりとなる。

山形で熱い議論

初日は10分科会で家庭教育や地域連携など様々な領域から議論が行われ、各分科会会場では演壇にアトラクションで会場を盛り上げた。

分科会では、天童市民文化館で開かれ、アトラクションでは天童高校ダンス部が華麗なダンスを披露した。その後、「令和の日本型学校教育」を支援するPTA活動の研究演壇で基調講演を行った。

また、山形市の山形県民ホールで開催された特別2分科会の実況発表は、北中学校の川小糸(せ)による、市内小・中学校PTA統一テーマ「マウスメディア」運動の取り組みが紹介された。

2日となる27日は山形市総合スポーツセンターをメイン会場に飯森範親氏を講師に迎え、全体記念講演・記念演奏会が行われる。来賓は広島の開催を予定している。

第1特別分科会編アトラクション(天童高校ダンス部)

2022年8月27日(土)

分科会	領域	研究課題	基調講演者
第1分科会	家庭教育	届かない子育てはない！子育ての悩みを解消するPTA活動 ―子育ての悩みと一人でも多くの子供の笑顔―	鈴木一作 氏 群馬県立高崎大学 子ども総合実践の会 代表
第2分科会	学校教育	地域とつながる学校教育 ―地域とつながる学校とPTAが共にできること―	永田聖雄 氏 東京学芸大学大学院特任教授
第3分科会	地域連携	郷土に誇りを持つ。地域社会の担い手となる人材を育てるPTA活動とは ―地域を大切に、愛するまちを創っていく―	渡部幸山 氏 東北芸術工科大学 特任講師
第4分科会	人権教育	子供たちの人権尊重と、地域社会の発展 ―地域を大切に、愛するまちを創っていく―	久保雅也 氏 PTA全国協議会の会 代表
第5分科会	広域活動	広域活動による課題・学校・地域をつなぐを求めて ―つながりをつくる学校と地域―	佐藤隆平 氏 磐城東洋大学 代表
第6分科会	情報教育	デジタル社会におけるICTの積極的な活用 ―子供のために学ぶPTA―	奥野紀晴 氏 シンジケート連手 代表
第7分科会	社会教育	子供のために学ぶPTA ―社会教育の推進―	生妻幸志 氏 NPO法人 スクール アクトビタ 代表
第8分科会	健康・安全	強みに気づき、前進される関係性をつくる ―子供のために学ぶPTA―	木村泰子 氏 大宮市立大宮小学校
特別1分科会	国際PTA活動	『令和の日本型学校教育』を支援するPTA活動 ―国際化の推進―	北原由美子 氏 Yamagata PTA 代表
特別2分科会	メディア・リテラシー	メディア・リテラシー教育における学校教育と家庭教育の役割 ―子供のために学ぶPTA―	佐藤隆平 氏 磐城東洋大学 代表

特別1分科会：パネルディスカッション

第2分科会：市内おぼろの会・大旗連福風の会

メディア・リテラシー教育における学校教育と家庭教育の役割

特別2分科会：実践発表

第3分科会：東北3県立中学校・小中学校教育発表

第1分科会：パネルディスカッション

特別第2分科会：太極 <TAISHI>



大会成功祈願



駐車場誘導



バス乗り場誘導



分科会受付



分科会



分科会 アトラクション



分科会 アトラクション



分科会 基調講演



分科会 パネルディスカッション



全体会スタッフ打ち合わせ



全体会挨拶 船橋実行委員



大会旗引き継ぎ



次期開催広島県 PR



大会宣言 荒井実行副委員長
(大会宣言起草委員長)





親子で読書 深める絆



～本を読む子はかならず伸びる～

山形県 P T A 連合会では、親子読書をとおして生涯学習を進め、親子で学び、親子でコミュニケーションを活性化することにより、親子の絆が一層深まり、子供の心が豊かになることを願い、運動を推進しています。



親子読書・地域の活動

母親世代から子供たちへ
読み聞かせを通じた
メッセージ

河北町立溝延小学校

本校では、十一月の読書月間に、母親委員会による読み聞かせ活動を行っていただいております。

今年も、

学年や季節に合った本など、母親委員の皆さんがそれぞれ選んだとっておきの一冊を読んでいただきました。子供たちは、くすつと笑ったり、うんうんと頷いたりしながら聴いています。最初はやや緊張気味だった教室の雰囲気も、子供たちが反応するにつれて、和やかな柔らかな空気に変わっていききました。



朝の短い時間ではありますが、子供たちは新しい本と出会うことができ、読書の世界を広げることができました。そして、母親世代から子供たちへ、読み聞かせを通してメッセージを届ける素敵な時間となりました。

うちどく⇩親子読書⇩読み聞かせ⇩
庄内町は三位一体の活動を行っていきます!!

庄内町立余目第三小学校

本校の親子読書委員会は平成二十九年に発足して、今年が五年目となります。親子読書は各クラス五〜六人のグループを作り、一冊の本を読みミニ感想文を親子で書きます。年二回の実施です。一月末の授業参観日に絵本の感想を各教室の廊下に掲示します。毎年親子で深く読み込んだ様子がうかがえる素敵な感想が大変多く、三小に親子読書活動が定着しているんだな〜と感じています。

おやこ読書だより 令和4年6月発行

親子読書スタート

余目第三小学校のみなさんへは！親子読書委員です。親子読書委員は平成29年に発足して、今年が5年目となります。今年度も変わらず、親子読書委員への協力をよろしくお願いいたします。☺☺☺

親子読書は各クラス5〜6人のグループを作り、1冊の本を読みミニ感想文を親子で書きます。年2回の実施です。1月末の授業参観日に絵本の感想を各教室の廊下に掲示します。毎年親子で深く読み込んだ様子がうかがえる素敵な感想が大変多く、三小に親子読書活動が定着しているんだな〜と感じています。

親子読書用の本を選別しました

先日の親子読書委員会で選本を行いました。委員会の大事なお仕事です。学校図書棚にあるたくさん本のの中から、選本するのはなかなか大変な作業です。しかし図書コーディネーターの伊藤さんから、多種多様な本を紹介して頂きながら、無事に今年度の選本が終了しました！みなさんお楽しみに！☺☺☺

親子読書委員会では、毎年リプル(朝の会読み聞かせ)に協力しています。委員のみなさんは都合をつけて年一回以上の参加をして

います。今年度もリプルへの協力を全員が一回以上実施しました。参加した皆さんからは「子供たちが本当に喜んでくれた」「やっとなにかあったという感想を頂き、今後も続けていきたい活動となっています」。

今年度、庄内町図書館「うちどく通信」へ親子読書委員会活動について寄稿しました。庄内町図書館さんからは小学校のリプル(朝の会読み聞かせ)へも参加して頂いております。庄内町では「PTA⇩リプル⇩図書館」と、三位一体の活動を展開して子供たちの読書活動を応援しております。



読書に親しむ心を育む
家庭と学校が連携した
親子読書活動

新庄市立新庄小学校 P T A

本校 P T A は、毎月第三日曜日を親子読書の日とし、学校と連携しながら取り組んでいます。

★「親子読書カード」の活用



最終月(二月)には親子読書の中から親子で相談し、一番の本「わが家のベスト本」を一冊選びます。

★「親子読書カード」の活用

各家庭から選ばれた「ベスト本」や新刊図書を紹介しています。



〈おすすめ方〉

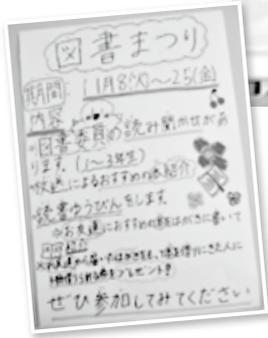
- ① 親子で読書する時間を設定
 - ② 本を選定
 - ③ 方法を決定
 - ④ 感想記入
- 〈主な方法〉
- ① おうちの人から読み聞かせをしてもらう
 - ② おうちの人へ読み聞かせをする
 - ③ 同じ時間に親子で読書をする

★児童会が中心となる活動

図書委員会の児童が、親子読書のある週に、校内放送で自分の読む予定の本のタイトルや読書方法について話をし、関心を高めていきます。



また、児童による読み聞かせや図書まつりの開催など、読書に親しむ活動を工夫して行っています。



「言葉の力」で知識を深める

山形市立西小学校

本校では、平成十一年から朝の本の読み聞かせに取り組んでおります。知識がいっぱい詰まっているポケットから、子供たちにいるいろいろな人の声によって、お話が飛び出していく会!「お話ポケット」として、在校生や卒業生の保護者、学区外からの協力者を募り、年九回の活動をしています。

語り手の方は、巨大な本や紙芝居、日本や外国の童話、時には方言や英語を織り交ぜるなど様々な工夫を凝らしながら、子供たちを本の世界へ誘います。

子供たちは新しい本との出会いがあり、語り手は子供たちを見守りながらエネルギーをもたうことができる、家庭・地域が連携した絆の輪が広がる活動です。



豊かな心を育む
読書推進PTA活動
「親子で読み聞かせ体験」

飯豊町立第一小学校

本校では「読書が大好き」といえるような子供たちを育むために、学校、地域、家庭が連携し読書活動をすすめています。

今年度のPTA研修会は「親子で読み聞かせ体験」として、読み聞かせサークル「夢空間」からの読み聞

かせをしていただきました。親子で聞くという普段と違った形での新鮮な時間になりました。今後

も各家庭でも夕食後や就寝前など無理のない時間帯に「親子で読書」「親子で読み聞かせ」を行い、子供たちの心に栄養を与え、第一小学校の校是「美しい心と丈夫な体」に繋がっていくことを期待しています。

絵本、紙芝居、しかけ絵本とさまざまな種類の読み聞かせをしていただき素晴らしかったです。どれも話の中に吸い込まれていき親子で同じ気持ちを持ち共有できました。となりで子供の表情を感じ取ることができ、今後もお互いで読み聞かせをし合いながら、感じたことや読み取ったことを話し合っていきたいです。



「家庭・学校が連携し健全な子どもの育成を目指すPTA活動」

西川町立西川小学校PTA会長 尾形 順一



一、はじめに
西川町は、山形県のほぼ中央に位置し古くは月山・羽黒山・湯殿山信仰で栄え月山と朝日連峰に抱かれた自然豊かな町である。

本校は、少子高齢化が進み児童数の減少で、平成二十四年に五つの学校が統合し、町一校となった。平成二十八年度からは、コミュニティ・スクールの指定を受け、学校・保護者・地域が一体となり、地域学校協働活動を推進している。PTA活動においても地域住民が賛助会員となり活動を支えている。

二、特色ある取組みについて

(一) 親も共に学び活用するICT機器

本PTAでは、研修部主催で一年一度研修会を開催している。開催にあたり、会員から意見を聞き内容を検討している。令和三年度は、会員より次のような声が聞かれた。

・子どもに一人一台のタブレットを

使用して学習しているが、親もタブレットの活用について学習したい。

・タブレット持ち帰りが始まるが、ネットトラブル等が心配である。

そこで、令和三年度は、「ICT機器の活用とICTモラル」についてICT支援員による講演を開催した。講演後、会員からは、「タブレットを使用するにあたって気をつけなければならぬことが思ったよりたくさんあり驚きました。タブレットを日常使いするようになったとき、子どもと一緒に親も気を付けなければならぬと思います。」などの感想があった。家庭におけるICT機器の使い方について見直す契機になった。

また、コロナ禍でのオンライン授業や家庭学習には親がICT機器の理解を深めることが必要だと感じた。そんな中、感染拡大のためPTAの会議も自粛され、会員が顔を合わせる機会が激減していた三月上旬のPTA全体会を研修の成果も生かしオンラインでの開催に挑戦した。全体会は、自分の子どものICT機器を

使い、会議に参加し、参加率は、八十パーセントを超えた。ICT機器の使い方を理解するよい機会となった。

(二) 親子でがんばる早寝早起朝ごはん

母親委員会は、学校保健委員会に委員として参加し、「生活リズム」について取り組んでいる。特に、母親委員では、「朝食を毎日食べることに重点をおいている。朝食は、母親のかかわりが特に大きく、母親の責任も大きい。その負担をできるだけ軽減しようと、「手軽にできる朝ごはんメニュー」を募集し、その中からすぐ減しように、「手軽にできる朝ごはんメニュー」を選り出し、冊子にまとめた。

この取組は、母親委員会が企画、依頼、印刷、製本すべてを行った。取組を通して、母親委員会のメンバー交流の機会にもなった。

(三) 地域を生かした学年行事

親子の交流、会員同士の交流の機会として、各学年で親子行事を行っている。その親子行事も地域のよさを生かしたものが多く、コロナ禍のため、密にならないように工夫して実施した。各学年で実施した親子行事は次のとおりである。

【令和三年度親子行事】

- 一年…天狗山登山
- 二年…自然の家で風鈴づくり
- 三年…学区をサイクリング
- 四年…陶芸教室
- 五年…収穫感謝祭
縄なのお正月リースづくり
- 六年…親子で月山和紙の卒業証書づくり

特に、五年生の親子行事は、総合的な学習で学んできた「米作り」のまめを発表する場、米を収穫したあとの藁の活用へと学びをつなげる場となった。正月のリース作りは、親子で和気あいあいと製作していた。

このように、親子行事は、PTAも地域学校協働活動の推進役になることも、その活動の良さを実感できる場となっている。

(四) 成果と今後の方向性

本校のPTA会員数は、ここ十年で半減した。今後も児童数やPTA会員数は減り続けることが想定されたために、令和元年度にPTA規約を見直し、組織のスリム化と事業の整理を行った。専門部の数や常任委員の人数、時期的な重なりが多かった各種事業が整理され、会員の過度な負担が解消された。

三、成果と今後の方向性

各事業への参加率が非常に高く、活動に前向きな会員が多い。「全員参加型の自主自立的なPTA活動」が良き伝統として受け継がれている。

本校PTAの大きな特色である大黒舞や森林学習は、子どもたちや学校、保護者、地域

にとっての誇りとなつている。今後も充実した取り組みを続けていくために、指導者などの人材の確保や引継ぎの仕組みの整備を進めていきたい。



先生・生徒・保護者が一体感を持ち、 楽しみながら行うPTA活動

〜キャッチフレーズはピタアーツ〜

米沢市立第五中学校PTA会長 **中田 秀樹**



一、はじめに

本校は、上杉鷹山公の恩師であり細井平洲先生ゆかりの地を地区に持つ、田園に囲まれた自然豊かで歴史を感じさせる地域にある。今年度、創立五十九周年を迎え、生徒数二百五名の学校ある。大変素直で穏やかな生徒が多く、生き生きと学校生活を送っている。

本PTAでは、先生方と連携し、子どもが必要としていること、学校が保護者に期待していること、保護者が学校に望むことなどを把握し、それらに応じて、一体感をもって活動することを大事にしている。

二、特色ある取り組みについて

(一) コロナ禍でも顔が見えるPTA活動

ここ数年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、思うような活動ができず苦慮したが、「顔が見え

るPTA活動」を行いたいと活動してきた。

① あいさつ運動

本PTA活動の大きな目玉は登校時の「あいさつ運動」である。参加した保護者からは「子どもとの会話のきっかけになる」「子どもから元気がもらえ、すがすがしい気持ちで一日が過ごせる」との声をいただく。活動後、「感染対策をしつかり行えばあいさつ運動はできる」ととても気持ちよいくらい活動なので、参加したことのない保護者の方は次回ぜひ！と、他の会員によびかける方もいた。また、大人が子どもにあいさつの手本を示すことは、子どもの礼儀や社会性を養うために有効と考える。

② ZOOM講演会・ワークショップ

現在は、WEB会議やインターネット配信の講演会などは当たり前だが、昨年度はまだ主流ではなかった。親子研修会を開催するために、研修部と母親委員会がタイアップし、ZOOMを使つての講演会を企画し

た。福岡市在住の車いすランナー・パラリンピックメダリスト 廣道純さんによる講演で、初めてのライブ配信による講演会は大好評であった。ここ数年は保護者が学校に足を運ぶ機会が少なくなり、「学校の様子が分かりにくい」「保護者の顔が分からない」「PTAの役員を引き受けるのが負担だ」との声を聴くことが増えた。【PTA活動は楽しい】と思つて活動してもらうためには、保護者同士が仲良くなり、互いに顔を合わせるのが楽しみになつてもらうことが大切と考える。今年度、母親委員会活動にワークショップ（筆文字・「ちぎり絵」）を加え、委員同士の交流を深めた。和やかな雰囲気、作品を作る工程で生まれる会話、次の活動のリクエストなど、会議のみでは得られない成果を感じることができた。

③ コロナに負けない専門部・学年部会活動

その他、育成部は交通安全指導・行事等への協力、広報部は広報紙「若樹」の発行と、生徒・保護者・学校の実態と課題に応じた活動を行っている。学年部会では、感染対策をしつかり行い、立志式や竹明かり制作など、親子で一緒に取り組める活動を行った。

(二) インターネット利用による被害防止活動

「つながっぺプロジェクト」
令和三年度、山形県警察本部より

「少年非行・被害防止プロジェクト事業」の指定を受けた。つながっぺプロジェクトと命名し、学区の幼児施設・小学校・地域が連携し、インターネット利用による被害防止活動を行った。米沢警察署生活安全課の渡部敬子専門官作成によるネットトラブル防止ソング「なかよし」ネット上をもとに、親子でSNS利用の危険性や約束事を考えた。近隣の幼児施設や小学校には、奏楽部と県警音楽隊で作成した音源で歌ってもらえるようお願いした。また、各家庭から募集したイラストを入れた歌の動画作成を行い、山形県警のホームページにも掲載していただいた。

その他、中学生の悩みや考えに大人が返事を書く、「伝えくる」活動にも取り組み、心のつながりの大切さを感じることができた。

三、今後の方向性

前任のPTA会長さんは、「PTAの頭文字は、＼ぱつと楽しく集まるうっだ」とおっしゃっていた。そこで私なりのキャッチフレーズを考えてみた。

「ピタアーツ」である。

生徒の実態に「ピタアーツ」と合う活動。先生方と「ピタアーツ」と考えを一つにして子どもの成長のための活動。保護者と共に「ピタアーツ」と一体感を持って楽しんで行う活動を、今後も展開していきたい。

このたび、日本PTA全国協議会会長表彰という名誉ある賞をいただきました。この記念すべき令和四年度は、我が母校である米沢市立三沢西部小学校が、大正十一年、現在の地に設立され一〇〇年となる年です。開校以来数多くの子供たちの学び舎として、地域の中核として存在し続けてきた三沢西部小学校ですが、令和五年三月をもってその歴史に幕を閉じることになりました。

私自身が親として三沢西部小学校と関わり始めた七年前、児童数の減少に大きな驚きと少しの寂しさを感じました。さらに三沢西部小学校の学校統合計画を聞いた際には「ついに決断の時期が来たか」と、私自身が関係者として統合計画に関わることとなることに不安を覚えました。親として「自分の子供たちの学習環境はどうなるのか？」PTAの役員として「学校全体で考えれば致し方無いことではないのか？」田沢地区に住む大人としては「学校がなくなったら様々な行事はどうしていけば良いのか？」等、多くの立場から考える必要がありました。

統合計画の説明を受け、いよいよ方向性を決めなければならない時期に至り私の中に「やれることは精一杯やろう」という気持ちが湧いて来ました。少子化は全国的な問題であり、一個人の力では太刀打ち出来ません。三沢西部小学校が統合となってしまうのも大きな時代の流れの一

題に向き合い、将来自分の決断に後悔が生まれないように今出来る事を精一杯やろうと決心が付きました。七家庭でできる活動を工夫して行うこと。まずは、役職が兼任しないようにし、会員個々が各部に集中できるようにするためのPTA組織改編。事業はすべて全校で行うこと。そし

優良PTA日本PTA全国協議会会長表彰

「100年目の決意」



米沢市立三沢西部小学校PTA会長

我妻 芳亮

つであると思います。しかしながら、ただ流されてしまう訳にはいきません。「統合に関わる子供たちに何が出るのか」「これから田沢地区で育つていくまだ小さな子供のために何を遺すことが出来るのか」「田沢地区の

これから若い保護者世代がどのように関わっていくのか」これらの課

て、創立一〇〇周年・閉校記念事業を、PTA組織を母体に地域の各団体と連携して進めること。

このようなことを中核として、少人数の利点を生かし、感染症対策を踏まえた事業を展開してまいりました。限られた人数で工夫してPTA活動や閉校に向けた準備を進めて行

く中で、改めて田沢地区の学校教育に対する熱意の高さを実感しました。PTAが実行委員となり進めてきました創立一〇〇周年・閉校記念事業に対しても多くの方々よりご協力を頂きました。また、統合後に関する様々な話し合いの中でもこれからどうしていくかという部分に皆様から情熱のこもったご意見を頂く事が出来ました。

三沢西部小学校は、三沢東部小学校と西部小学校と一緒に新たな形の学校生活とPTA活動が始まります。今後は、田沢地区の保護者の親睦を深める後継団体を創設し、地区ならではの活動も大切につないでいきたいと考えております。これからも田沢っ子達が大きく成長することに期待し、その姿を温かく見守る、変わることのない田沢地区がいつまでも続いていく事を心より願ひ、今後も活動してまいります。

この度、「日本PTA全国協議会会長賞」という素晴らしい賞を受賞することができ、大変嬉しく思っております。このような素晴らしい賞を受賞できたのも、これまで関わってきていただいた諸先輩方、現在の会員の皆様、地域の皆様、そして、教職員の皆様のおかげと、心から感謝しております。

一、地域と学校の特徴

尾花沢市立玉野小学校は、尾花沢市の東側に位置し、地区内には、国内外から多くの観光客が訪れる大正ロマン香る「銀山温泉」があります。また、学校の北東には、山形百名山の一つであり、地区のシンボルでもある「二ッ森」がそびえたっており、校舎周辺も農地に囲まれている自然豊かな場所にあります。玉野小学校は、明治十一年に開校し、令和四年度で創立百四十三周年を迎えた全校生徒六十五名、教職員二十名の小規模校です。冬季は、二メートルを超える積雪を生かし、全校生徒が学校の授業の中で、クロスカントリースキーに取り組んでおります。

二、本校の特色ある取り組み

①全PTA会員参加の組織体制

本校の組織体制として、PTA会長・副会長・幹事等の三役を中心とし、保健体育部(上学年保護者)、生活

環境部(下学年保護者)の二つの専門部と、学年委員会、地区代表という組織や役割があります。そして、三役・専門部(部長・副部长)・学年委員会(正副委員長)・地区代表で「PTA評議員会」を構成し、この組織で学校全体のPTA活動を運営しています。

②PTA全体の取り組み

全PTA会員からご協力いただき、登校時のあいさつ運動と下校時

チかけを行っています。その他、学校図書の新修作業やPTA新聞「かつら」の発行を行っています。

④保健体育部の取り組み

運動会当日の道具の運搬や後片付け、大会役員等、運動会の運営への協力を行っています。また、校内のクロスカントリースキー記録会においては、コース整備を含め、記録会運営への協力を行っています。その他、市の

優良PTA日本PTA全国協議会会長表彰

少人数でも全会員の協力で 成り立つ温かいPTA活動



尾花沢市立玉野小学校PTA会長 岩崎賢一

の見守り活動を行っています。また、春と秋の二回、地域の各家から出していたいただいた資源の回収活動や学校の雪囲いの取り外しや設置を行う早朝活動も行っております。その他、会員同士の交流を目的に、学年対抗のソフトバレーボール大会を行っております。

③生活環境部の取り組み

校内の学習畑や花壇を耕し、マル

陸上競技大会や市のスキー大会でのテントの設営や道具の運搬などにも協力しています。

⑤学年委員会の取り組み

子供の成長を支援すると共に、会員同士や担任の先生と会員との親睦を深めるため、各学年で学年行事を企画しています。「サンドグラス作り」「そば打ち」「地元のマラソン大会参加」「二ッ森山開き登山への参加」

等、市内の企業や人材、地元の自然環境を活用した学年行事を行っています。特に六年生の学年行事では、毎年、夏休みに学校に宿泊するという体験を行っており、ひと夏の貴重な思い出作りを行っています。ここ二年ほどは「防災キャンプ」として、自校が避難所になった時の避難所運営について、子供達が事前にプランを考え、当日、尾花沢市の防災士に指導を仰いだり、会員と一緒に段ボールベッドやテントを運んで設置したり、非常時の調理体験をしたりと深い学びも含めたものを行っています。

三、成果と今後の方向性

小規模校で人数が少ないからこそ、会員同士の交流がしやすい、お互いの顔が見えやすいことが、これまでの取り組みを素晴らしいものにして続けてきていると感じます。しかしながら、尾花沢市も例外ではなく、市内の少子化が進んでいることから、令和八年度で玉野小学校が閉校となり、令和九年度からは、市内の五つの小学校が一つの小学校に統合されることが決まっています。玉野小学校としては、残り四年ほどのPTA活動とはなりますが、引き続き、会員同士のつながりを深め、最後の最後まで良いPTA活動ができるよう続けていければと思います。

「子供の安全や体験機会確保を
めざした全員参加のPTA」

山形市立千歳小学校PTA会長

神田 善弘



【千歳地区】
学区は山形市の中心からやや北に位置しています。

馬見ヶ崎川、野呂川が流れ、住宅地域のほか、田園地域、流通業務団地があり、馬見ヶ崎地区の商業地域にも近接しています。羽前千歳駅、国道十三号、山形北インターチェンジがあり、交通アクセスがよい地域です。水泳や球技、武道に加え、冬にはアイススケートもできる山形市総合スポーツセンターが学校に近く、スポーツも盛んな地域です。

【千歳小学校とPTA】

今年度創立百三十周年を迎えた歴史ある学校です。平成三十年に新校舎、令和二年には新グラウンドが完成し、児童たちは木のぬくもりを感じられる新校舎で活動しています。

PTA活動は、専門部、母親委員会、学年PTAによる事業の他に、全保護者が希望の事業に参加するエントリー制による活動を行っています。

◆安全の確保

交通量の多い道路、線路、河川があることから、保護者が学区内を点検し、「安全マップ」を作成して児童に危険な場所を知らせています。

また、保護者による立哨指導のほか、地域の交通安全指導員の方々と連携した見守り活動を行っています。

◆体験の機会の創出

味噌づくりなどの学年行事を中心に、親子で楽しみながら地域に触れ、学びを得る活動を行っています。

今年度は創立百三十周年記念事業として、卒業生のほとんどが入学する山形市立第四中学校出身で、女子バレーボール元日本代表の高橋みゆきさんをお招きし、夢や目標をかなえる方法をクイズを交えながら楽しくお聞きしました。

【課題と今後の方向性】

コロナ禍で、PTAの目的の一つである「交流」が十分に図られない一方、WEB会議の導入や書面決議等、負担の軽減もありました。

近年、役員のなり手不足や会員の負担軽減が課題となつていきますので、中止して影響がなかった事業を整理する等、負担は減らして活動や交流は活発化するPTAを目指していきます。

「つながろう！チーム日新PTA、
未来あしたの子どものために！」

新庄市立日新中学校 父母と教師の会

会長 星川 憲雄



一、本校を取り巻く環境
本校は、国道一三号線と四七号線に挟まれた市街地と農村部の接点に当たります。

松本地区に位置している。本学区は従来より教育への関心が高く、全学区民加入の日新学区教育振興会と日新小中PTAが相互に連携した物心両面にわたる協力支援体制が整備されている。今年度本校には、全校生徒二百八十三名が在籍しており、地区内では、一番大きな中学校となつている。

（一）日新中学校のPTA組織

日新学区では、小中の九年間を通し、地域における子どもたちの健全育成や安全確保等を推進している。そのため小学校とスローガン（つながろう！チーム日新PTA、未来あしたの子どものために！）を共にし、連携を深めている。ここ数年は、コロナ禍による制限で計画通りの活動とはなっていないが、PTA事務局を中心に知恵を出し合い子どもたちができる環境づくりを進めてきた。

（二）学校行事等への協力

運動会や学芸発表会などの学校行事では、PTA役員が運営に参

加、協力している。

（三）生活習慣改善に向けた取り組み

日新中学校の教育課題である家庭でのゲームやSNSの利用時間と家庭学習について、PTAの立場から保護者アンケートを実施した。その結果から保護者が思っていたより、生徒のメディア利用時間が長いことがわかった。このことについてPTAだよりを発行して呼びかけ、その改善に取り組んだ。

（四）地域奉仕活動

各町内の健全育成部員が主体となり、小中の児童生徒が地域行事やボランティア活動に取り組んでいる。今年度も地区の清掃活動や資源回収、お祭り等に多数の生徒が参加した。

（五）おさがりリサイクル

母親委員会が保護者に呼びかけを行い、制服やジャージなどのリサイクル活動を行っている。各行事の際に希望者に受け渡しているが、毎回在庫がなくなるほど好評である。

（六）各種研修会等への積極参加

今年度、全国PTA研修大会山形大会が開催され、本校PTAも運営役員として参加した。

三、成果と今後の方向性

今年度の重点テーマを家庭学習の習慣化も含めた「家庭での望ましい生活習慣づくり」とし、全会員への啓発並びにその継続的実践を推進してきた。

ここ数年のコロナ禍により学校や地域での交流の機会が減少し、保護者間の関係性が希薄になってきている。このような状況の中、PTA活動は交流の場としても重要な意味があると考える。これからの時代に合ったPTA組織、運営の在り方を考え、実践していきたい。

テーマ

『コミュニティ・スクール 及び 地域学校協働活動とPTA』

社会に開かれた教育課程の実現に向けて、学校教育を学校内に閉じずに、地域の教育資源を学校教育に生かしながら、地域と学校が一体となってよりよい社会を創っていくことが求められている。県では、学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組む「コミュニティ・スクール」と学校と地域が相互にパートナーとして行う「地域学校協働活動」の一体的な実施を推進している。

話題提供

教育庁生涯教育・学習振興課 課長補佐 矢作 誠氏

地方では近年、少子高齢化、生産年齢人口の減少によって過疎化が進み、学校ではいじめ、不登校、学力低下などの問題が長期化深刻化しつつある。地域と学校のそれぞれが単独で対応していくことは、困難になっている。そのために、学校、家庭、地域が一体となって「地域とともにある学校づくり」に取り組むことが必要になってきており、実現のために有効な仕組み、考え方が※コミュニティ・スクールである。（※コミュニティ・スクールとは、学校と地域が対等の立場で学校運営について話し合う学校運営協議会を置く学校のことである。）さらに、学校運営協議会で話し合われた共通の目標を達成するために、地域と学校が一緒に行う活動が地域学校協働活動である。これらの効果として、「職場体験や授業補助などによる教員の負担軽減」「子供のコミュニケーション能力向上や、地域の一員としての自覚の芽生え」「地域住民がやりがいを感じ、学校への理解が深まる」などが挙げられる。

以上の話題提供を受けグループに分かれ、「これまでの地域学校協働活動等の現状について」と「地域学校協働活動等に多くの方々から関わってもらうためには」という視点を考慮しつつ意見交換が行われた。

- 大人の意見だけでなく、子供の視点も入れる必要があるのではないか。
- しっかりと組織づくりをしていきたい。地域とつながる仕組みが難しい。
- 高校の協働活動としてインターンシップを長期スパンでやるなど企業として関わっている。SNSの活用など積極的に取り入れるのもいいのではないかな。
- コロナ禍で地域と関わるのも難しくなっているが、学校をさらに開いて知ってもらう企画づくりと、PTAにさらに参加したいという雰囲気も大切である。
- 高校にとっての「地域」のとらえ方が難しい。地域の人選も大変なことがあるが、共有意識をもって関わっていききたい。学校と地域が本当にウィンウィンの関係になっているのか、再考も必要なのではないか。



〈総括・講評から〉

山形県ひいては地域にいかにか子供が残ってくれるのか…魅力ある郷土をつくるべきである。多様な人材の集合体である地域と学校が両輪となって社会を作っていかなければならない。社会の急激な変化の中で、地域の誇りやつながり、学びが好循環となって学校に戻るといいう仕組みづくりが大切である。

山形県PTA連合会副母親委員長 渡部 香陽子



県P連 母親委員会
委員長
高見佳澄

山形県PTA連合会母親委員会の活動に、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。各郡・市PTAの母親委員会におかれましては、四年目ともなってもまだ収まりを見せないコロナ禍において、感染防止に努めながらできる限りの活動をしていただきありがとうございます。

県P連の母親委員会は「いのちの尊さ大切さ」のテーマのもと、各郡・市Pの代表の方々と子供たちの様子や、各郡・市の母親委員会の活動について情報交換を行っています。視察研修会では山形市P連の母親委員と交流を図り、山形市PTA連合会と山形市PTA連合会母親委員会共催の「いのちの大切さ学習会」に参加し「発達障害」について学びました。ぜひ皆様にもご一読いただき、情報を共有していただければ幸いです。

男女平等の観点や、生徒数の減少に伴う役員のみ手不足、コロナ

ウイルス感染防止によるPTA活動が縮小されている今、母親委員が一番に削られそうになる委員会です。しかし、山形県は多くのお父さん方がPTA会長として活躍してくださる県です。それゆえ、母親委員会は、子供にとって一番身近な存在である「お母さんの想い」を聞くことができる大切な場と捉え、母親同士のネットワークの素晴らしさや母親としての細やかな心づかいなどの利点を生かし、父親のみならず子育てに関わる方々と子供たちのために何ができるのか「お母さんだから・女性だからこそ気付き発信できること」を共に考え、活動につなげていきたいと思えます。

どんなに時代が変わろうとも、子供に必要なのは、私たちの無償の愛とスキンシップということに変わりはないと思えます。また、子供たちの抱えている課題を解決するには、親同士のつながりや、情報を共有することが重要ではないかと思えます。このような時だからこそ、子供との「かわり」と親同士の「つながり」を大切にしながら、母親委員会は活動してまいりたいと思えます。

各地区の活動報告

《山形市》

- ・テーマ「いのちの尊さ大切さ」
～かかわる喜びつながる心 守ろう私と家族の笑顔～
- ・定例母親委員会3回（5/12・6/23・2/13）
- ・拡大母親委員会1回
研修：「いのちの大切さ学習会」（県P親学補助事業利用）
講師：花輪敏男氏（FR教育臨床研究所所長）
- ・“親学”家庭教育視察研修（コバル、少年鑑別支所視察）
- ・母親委員会日より「マザーズねっとわーく」No.27発行

《西置賜地区》

- ・地区母親委員会（中止）
- ・全国研究大会への協力と参加

《酒田飽海》

- ・母親委員会（情報交換）
- ・全国研究大会山形大会への協力

《上山市》

- ・母親委員会1回
- ・保護者研修会
（全国研究大会山形大会への参加）

《東田川郡》

- ・定例母親委員会2回
*活動報告
*情報交換等

《米沢市》

- ・定例母親委員会2回（書面・2月）
*活動報告・情報交換等



《鶴岡市》

- ・鶴岡市P連事務局会・常任委員会への参加（正副委員長のみ参加）
- ・全国研究大会山形大会への参加



【令和4年度 母親委員会】

《天童・東村山地区》

- ・母親委員会総会（中止） ・母の集い（中止）
- ・全国研究大会山形大会への協力と参加

《最上地区》

- ・地区母親委員会1回（講演・演習） ・代表母親委員会2回
- ・母親委員会日より「かあちゃんホットライン」発行

《北村山》

- ・村山市P : 委員会 / 読み聞かせ / おたより発行
- ・尾花沢市P : 委員会 / おたより発行
- ・大石田町P : 母親交流会 / 「母親伝言板」発行
- ・東根市P : 組織なし

《西村山》

- ・母親委員会（3回）
- ・代表委員会（5回）研修：「部活動ってどうなるの？」
- ・母親委員会日より
- ・全国研究大会山形大会への協力と参加

《東置賜地区》

- ・地区Pでは組織化されず活動なし
（単位P3校での組織・活動あり）



家庭との連携で取り組んだ メディアコントロール

山形市立第六小学校

校長 江口 俊和



小中学生の中で、インターネットにつながるICT機器(ゲーム機を含む)を所有している割合は、九割を超えている(令和三年山形市教育委員会の調査より)。山形市や山形県のPTA連合会でも、ネットモラル向上の取り組みがなされている。そこで、PTAと学校が連携して、「メディアコントロール」に取り組んだ例を紹介したい。

◆なぜ、メディアコントロールに取り組むのか

今の子どもたちを取り巻くメディア環境は日々変化し、子どもたちの体や心の発達に大きな影響を及ぼしている。各学校でもPTAや地域と協力し、「メディアと健康」をテーマにして、子どもたちの健康課題解決に向けて、取り組んでいるのではないだろうか。

電子メディアの誤った使い方、長時間の使用による心や体、生活リズムに与える影響、人間関係へのマイナスの影響などさまざまな状況から、電子メディアを有効に活用する力を育てる必要性を感じている。そこで、子ども自身が自分の生活を見

つめ直し、主体的にテレビやゲーム、パソコン、携帯スマートフォンに触れる時間をコントロールしていく力を身に付け、自立していくことができるように、PTAとも連携して取り組む。

◆実際の取り組みから

メディアコントロールの取り組みは、主として家庭で行うことが多く、保護者の協力が不可欠である。例えば、ある一週間の月曜日から金曜日までを「いきいき週間」とし、親子で行う。まず、「我が家のルール」を確認し、三つのコース(ややハード、標準、ゆるやか)から選択して取り組む。

◆成果と今後の方向性

成果としては、以下の点が挙げられる。

- 家族で、自分たちの生活を見つめ直すきっかけとなり、ゲームの時間を決める等生活にめりはりができた。
- 子どもとの会話が多くなり、家族団らんや子どもが外遊びをする機会が増えた。
- 我が家のルール作りをすることによって、メディアとの過度の接触を減らし、自分自身の時間や家族団らん、人とのつながりを大切にすることができるようになった。

このような成果が見られたので、継続して計画的に実践している学校も複数ある。ただし、ここで大切になることは、決して一方的な押し付けにならないようにすることである。

栄えある受賞おめでとうございます

今年度、県PTA、単位PTAにご尽力なされ、多大のご功績をあげられた団体・個人の方々に感謝状や表彰状が贈られました。また、PTA広報紙も全国コンクールにおいて奨励賞を受賞されました。誠にありがとうございます。(敬称略)

令和4年度優良PTA文部科学大臣表彰

- (団体)
西川町立西川小学校PTA 米沢市立第五中学校PTA

令和4年度日本PTA全国協議会会長表彰

- (団体)
米沢市立三沢西部小学校PTA 尾花沢市立玉野小学校PTA

- (個人)
植松 大祐 前県P連副会長(北村山PTA)
大熊 孝幸 前県P連副会長(西村山PTA)
穴沢 洋一 前県P連副会長(西置賜地区PTA)
- (全国大会感謝状)
船橋 吾一 (山形大会実行委員長)
荒井 寛 (山形大会実行副委員長)
高田 誠 (山形大会実行副委員長)
前田 浩一 (山形大会実行副委員長)

令和4年度東北ブロックPTA協議会会長表彰

- (団体)
山形市立千歳小学校PTA
新庄市立日新中学校父母と教師の会
- (個人)
鈴木世志樹 前県P連理事(上山)
阿部 明彦 前県P連理事(天童・東村山)
丸川 信明 前県P連理事(米沢)
島津 友幸 前県P連理事(東置賜)
五十嵐 孝 前県P連理事(鶴岡)
大川 真宏 前県P連理事(東田川)
齋藤 嵩史 前県P連理事(酒田飽海)
遠藤 愛 前県P連理事(副母親委員長)
海野 裕喜 前県P連理事

令和4年度優良PTA山形県教育委員会表彰

- 西川町立西川小学校PTA 米沢市立第五中学校PTA
尾花沢市立玉野小学校PTA 米沢市立三沢西部小学校PTA
山形市立千歳小学校PTA 南陽市立沖郷小学校PTA
山形市立第四中学校PTA 鶴岡市立朝陽第二小学校PTA
大蔵村立大蔵小学校父母と教師の会 鶴岡市立渡前小学校PTA
新庄市立日新中学校父母と教師の会

令和4年度第44回全国小中学校PTA広報紙コンクール

- (日本PTA奨励賞・山形県PTA会長賞)
酒田市立琢成小学校PTA 「琢成」
酒田市立亀ヶ崎小学校PTA 「ひなづる」
酒田市立松陵小学校PTA 「松陵」
遊佐町立遊佐中学校PTA 「けやき」
山形市立第一中学校PTA 「希望の鐘」
- (山形県PTA会長賞)
山形市立楯山小学校PTA 「たてやま」
寒河江市立寒河江中部小学校父母と教師の会 「やまぼうし」
最上町立大堀小学校PTA 「清流」
山形市立第六中学校PTA 「瀧山だより」

令和4年度山形県PTA連合会会長表彰

感謝状 (令和3年度県P連役員退任者)

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 植松 大祐 | 大熊 孝幸 | 穴沢 洋一 | 鈴木世志樹 |
| 阿部 明彦 | 丸川 信明 | 島津 友幸 | 五十嵐 孝 |
| 大川 真宏 | 齋藤 嵩史 | 遠藤 愛 | 早坂 智 |
| 工藤 幸吉 | 海野 裕喜 | | |

表彰状 (郡・市P連より推薦)

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 佐藤 清徳 | 無着 哲哉 | 鈴木 崇人 | 金子 政幸 |
| 今井 直明 | 菊地 直美 | 佐藤 義浩 | 植松 路子 |
| 阿部 勝志 | 大塚 黄司 | | |

山形県PTA連合会安全互助会から

安全互助会は山形県PTA連合会事業の一環として運営されています。
関係各位・保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

山形県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例

《条例の主な内容》

◎交通ルールの遵守 ◎自転車の安全利用 ◎自転車保険の加入義務化
◎自転車交通安全教育の充実 ◎自転車の適正な管理

※その中の第12条自転車損害賠償保険等への加入については、令和2年7月1日から施行されました。
児童・生徒の自転車での事故による損害については安全互助会に加入していることで補償の対象となります。
未加入の学校PTAは是非ご検討下さい。

安全互助会ってなあに？

～加入については学校PTAごとになります～

- *補償内容によってA・B・C・特A・特B・特Cの6コースがあります。
- *児童・生徒の学校管理下外のけがや、偶然的事故での賠償事故を補償します。
- *PTA行事中の会員(児童・生徒・保護者・教職員)の傷害事故・賠償事故を補償します。

▽近年の賠償事故の件数・支払金額増加傾向の対策として、賠償補償限度額1,000万円のコースをおすすめします。

- ・安全互助会加入校のうち7割を超える学校PTAがA・B・Cの賠償補償額1,000万円のコースに加入されています。特に人身事故は医療費の全額が請求されたり高額になる場合があります。万が一の事故に備え是非ご検討下さい。

▽子どもが自転車に乗るときはヘルメットを着用させましょう。

- ・ヘルメット着用は努力義務です。ヘルメット着用を習慣化し、子どもたちを重大事故から守りましょう。

▽事故の未然防止が一番大切です。

- ・傷害事故の中でスポ少やクラブチーム活動中の事故が最多となっています。
- ・登下校や外出時は安全確認の声掛けで注意喚起し、事故防止にご協力下さい。



加入 259 校の内訳				傷害事故支払状況 (単位: 千円)				賠償事故支払状況 (単位: 千円)			
A	61	特A	185	年度	件数	児童・生徒	件数	PTA 傷害	年度	件数	PTA 傷害
B	1	特B	10	令和元年度	1,032	9,717,000	45	2,514,330	令和元年度	74	3,839,447
C	1	特C	1	令和2年度	998	10,398,020	3	1,618,200	令和2年度	42	1,903,219
				令和3年度	1,031	9,518,221	3	64,000	令和3年度	56	3,407,296
				令和4年度(5.1.31 現在)	788	8,095,351	4	609,000	令和4年度(5.1.31 現在)	53	2,809,453



タブレット端末等の破損について

学校から持ち帰ったタブレットを自宅で誤って壊した場合、他人から借用した時点でその借用物に対する管理責任が生じるため、保険金のお支払い対象外となります。

令和4年度 山形県PTA連合会役員名簿

職名	氏名	所属	学校名	職名	氏名	所属	学校名
会長	船橋 吾一	山形市PTA連合会	蔵王一中	理事	石川 雄一	酒田飽海PTA連合会	酒田六中
副会長	武田 靖裕	山形市PTA連合会	鈴川小	理事	高見 佳澄	県P母親委員会(委員長)	山寺小中
副会長	佐藤 弘康	西村山PTA連合会	陵南中	理事	渡部香陽子	県P母親委員会(副委員長)	飯豊一小
副会長	味田 勝徳	西置賜地区PTA連絡協議会	飯豊一小	理事	高橋 典子	県中学校長会	蔵王三小二中
副会長	齋藤 春樹	東田川郡PTA連合会	余目中	理事	江口 俊和	県連合小学校長会	山形六小
理事	原田 拓	上市市PTA連合協議会	上山小	監事	井上 哲寿	山形市PTA連合会	山形一小
理事	津藤 健士	天童・東村山地区PTA連合会	天童四中	監事	吉田 正彦	上市市PTA連合協議会	中川小
理事	平山 龍一	北村山PTA連合会	楯岡中	監事	栗原 宏之	県小中学校教頭会	山形五小
理事	柿崎 和朗	最上地区PTA協議会	新庄小	事務局長	大江 昌信		
理事	鈴木 勝志	米沢市PTA連合会	塩井小	事務局員	佐藤 静子		
理事	油井 邦宣	東置賜地区PTA連合会	屋代小	事務局員	奥山 絢子		
理事	野口 義明	鶴岡市PTA連合会	鶴岡三中				

お知らせ

令和五年七月から山形県(市)PTA連合会事務局の住所及び電話・FAXの番号が変わります。(メールアドレスは変わりません。)今の事務局は第七十回日本PTA全国研究大会山形大会事務局を兼ねておりました。移転先は、以前と同じ県保健福祉センター内四階(千九〇〇〇三)一山形市十日町一丁目六番六号)になります。詳しくは、決まり次第、連絡をいたします。

編集後記

「PTAやまがた」第四十七号をお届けします。令和四年八月二十六日(金)・二十七日(土)に、第七十回日本PTA全国研究大会山形大会が開催されました。コロナ禍での準備で様々なことがありましたが、「学びの歩みを止めない」という思いで進めてきました。山形県だからこそ、充実した人とひとの「つながり」の大切さを体感できた大会になったと思います。この大会に携わっていたいただいた方々、そして山形県PTA連合会会員の皆様にご感謝申し上げます。この大会での研究成果が今後のPTA活動に活かされ、すべての子供たちに明るい未来が広がることを切に願います。